

## 第 14 回代かき濁水対策を進める WG 要旨

日 時： 令和 3 年 12 月 3 日（金） 13：30～15：00

場 所： 香美市立中央公民館 2 階会議室

参加者数： 18 名

### 【議題】

#### 1 2021 年春の濁度調査結果について（報告）

事務局より、濁度調査結果を報告。

#### 【主な意見】

- これまでの調査結果から傾向は分からないか。
- 山田堰との差を見ると農業濁水の影響はあるが、傾向の判定はまだ難しい。
- 上流の堰で取水することで本川の水が減り負荷が大きくなっている。
- 水稻がショウガに転用されて、昔より農地から出る濁りは減ったが、山から入ってくる水が濁っている。
- 農業者に何のためにやっているか知ってもらうことが大事。
- 物部川だけでなく流域の香宗川の濁水も課題。
- 物部川は濁水以外にも様々な問題がある。任せられるものは任せて他の大きな課題に取り組むことを考えてはどうか。
- 琵琶湖では 30 年近く取組を続けている。効果はすぐには見えないが取組を続けていかなければいけない。

#### 2 2022 年作付けに向けての普及啓発方法について（協議）

事務局より、2022 年作付けに向けての普及啓発方法（案）を説明。

#### 【主な意見】

- 引き続き流域 3 市も広報掲載対応する。JA も全地区の農家に向けたチラシ配布を行う。
- 広報誌に掲載したことによる反応はないものの、継続して取り組む必要がある。
- 土地改良区の広報でも啓発してくれている。WG に土地改良区の参加をお願いしてはどうか。
- 均平をとった方がジャンボタニシの被害も少ない。また貴重な土壌の流出を防げるなど浅水代かきが農家にメリットがあることを示すことは良い取組。
- 香南ケーブル TV や YouTube などこれまでの広報誌の発信にプラスして実施してはどうか。
- 濁りのない安定した水質の川を目指すためには行政の姿勢が大事である。
- 土地改良区から止水板を配布したとの声があった。止水板の在庫が無いので行政で作成できないか。

#### 【検討結果】

- 広報紙への掲載文は環境農業推進課に校正依頼した後、それぞれの機関で掲載する。
- ケーブル TV や YouTube での配信を検討する。
- 止水板の作成については県と流域 3 市で協議する。

### 3 活動の中長期目標について（協議）

事務局より、WGで話し合っていたきたい目標設定について説明。

#### 【主な意見】

- 代かき濁水 WG は進んできている取組。清流保全計画が出来たからこそ協働して取り組めた。
- 当初は濁りがひどかったが、ここまで協力してやってくれるとは思っていなかった。
- 農業は長い歴史がありすぐには変わらないものの、農家は協力してくれている。啓発を地道に進めることが重要。
- 環境は簡単には変わらない。水がどこから来てどうなるか意識することが重要。
- 方向性は自治体が引っ張っていかないといけない。これまでの取組を振り返りながらよかれと思うことを続けていくべき。
- 実現不可能な目標を立てるべきではない。継続することが重要。

#### 【検討結果】

- 代かき濁水 WG での目標は事務局案で了承。
- 止水板の使用率を項目に入れるのであれば、作成し配布しなければいけない。

### 4 その他意見

- 一斉清掃がコロナで2年連続中止になったこともあり、物部川のゴミが増えている。
- ラブリバーパートナーシップの制度があるが左岸は対象団体がない。増やしてもらえればありがたい。
- 粗大ゴミが非常に多い。またペットボトルや肥料・農薬の袋などプラゴミが増えている。
- 稲わらの問題も今後考えていかなければならない。